

平成 20 年 9 月 28 日改*)

平成 20 年 9 月 24 日

「モンゴル国子ども達の発達を支援する指導法改善プロジェクト」業務報告書

～第三年次指導書開発計画(案)と第三年次指導書(案)改善と試行授業及び協議に関する指導助言～

篠原文陽児(担当科目:IT教育)

1. 出張期間 平成 20 年 9 月 2 日(火)～同年 9 月 13 日(土)
2. 目的 JICA 人間開発部による(株)コーエイ総合研究所と東京学芸大学の 3 ケ年プロジェクト「モンゴル国初等中等教育指導法改善プロジェクト」事業の第三年次指導書開発計画(案)と第三年次指導書(案)の改善と試行授業及び協議等に参加し、指導及び助言にあたる。
3. 業務内容
 - (1) 平成 20 年 9 月 3 日(水)から同 10 日(水)
 - ①平成 20 年 9 月 3 日(水)から 4 日(木)午前<教育大学 Chojoo 学長室>
カウンターパート Chojoo、Munkhtuya、Zolzaya、Zhedebsuren 各氏と、計画(案)と指導書(案)第 1 章、第 2 章、第 3 章について、意見交換。個別化、個性化対応への配慮、また、購入しなければならない「Flash」の扱いにつき「著作権保護」の観点から、一事例としての記述とすることを提案。
 - ②平成 20 年 9 月 4 日(木)午後から 5 日(金)<試行授業学校>
試行授業実施予定教員を交えての協議及び指導助言。過去 2 年間の経験を生かし、「ことばと概念の分化」に十分に留意した指導案、指導書とすることを提言。
・4 日(木)午後、5 日(金)午前、同午後、それぞれ<第 97 学校>、<第 45 学校>、<Setgemj 学校>。それぞれの試行授業実施予定は、Ms. Baasanjab、Ms. Delgertsetseg、Ms. Erdenchimeg 各教諭。
 - ③平成 20 年 9 月 6 日(土)及び 7 日(日)<[ホテル](#)内で資料整理>
 - ④平成 20 年 9 月 8 日(月)から 9 日(火)<教育大学 Chojoo 学長室>
Chojoo、Munkhtuya、Zolzaya、Zhedebsuren 各氏と、それぞれの執筆担当分に関するとりまとめ協議及び指導助言。ゲーム(ビジネス・ゲーム)的要素とプロジェクト法を全試行授業に取り入れ、具体的事例を豊富に記述することを提案。
 - ⑤平成 20 年 9 月 10 日(水)<教育大学 Chojoo 学長室、Mongol Education Channel>
・午前 Chojoo 氏と、第三年次指導書(案)に関し総括的協議。内容の継続性の観点から「プログラミングの基礎」として「ホームページ(HP)作成」を提案。
・午後 Chojoo 氏とともに[Mongol Education TV Channel](#)に出向き、Mr. S. NATSAGDORJ 局長と、IT 授業を中心とした本プロジェクト及び関係授業の広報及びプロモーションのための協議。一般家庭視聴者を含む「番組審議会」(仮称)を提案。
 - (2) 平成 20 年 9 月 11 日(木)から 12 日(金)

①平成 20 年 9 月 11 日（木）＜日本センター及び第 45 学校＞

- ・午前 [日本センター](#)。JICA小貫次長の臨席のもと、Ms. NerguiとMs. Narantuyaの司会で、UB、Selenge及びDornod各市・地域のプロジェクト責任者及びプロジェクト担当校の責任者と各教科領域の試行授業実施担当者による第三年次指導書開発計画(案)と第三年次指導書(案)の発表全体会に参加。
- ・午後 [第 45 学校](#)。今年から開始された 6 歳児新 1 年生の授業参観と、試行授業担当者によるコンピュータを使わない授業(停電によるハプニングがあったが、優れた授業者Ms. Delgertsetsegが手際よく対応)及び質疑を通じた指導助言。

②平成 20 年 9 月 12 日（金）＜[Nukht合宿会場](#)＞

- ・午前 全体研修に参加。
- ・午後 5 時 20 分から午後 6 時 10 分 「DVD 制作について」講演
＜要旨＞[DVD](#)に記録されるべきは、テキスト指導書そのものと、テキストの記述項目に関連のある各種資料であり、それには、「文書」「音声」「映像」「URL」、そして、「授業の実写映像」などがある。これらは、本プロジェクトの趣旨「子供の発達を支援する指導法」つまり「発達段階を十分に考慮し、系統性に十分に留意して収集され取捨選択され、明確にそれでいて縦横無尽に関連性が記述されるべき」であり、「質の高い豊かなリンクが張られるべき」であること。また、特に映像資料の撮影と編集等制作については、プロに任せること。なお、テキスト上の事例ではあるが、関連性を重視した記述様式は、「第二年次IT指導書」に一部実現されており、参照とすべきこと。

4. 3 年次指導書作成およびプロジェクト終了に向けての課題

(1) 「モンゴルらしさ」(モンゴルマイクエ)と「グローバル化思考」への挑戦

プロジェクト開始当初のモンゴル国「IT 教育」は、「IT 機器の活用」を推進していた他の国々とは異なり「情報科学の教育」であり、いかにも「モンゴルマイクエ」の内容であった。一方、「IT 教育」は「CT と DT」(コントロール技術とデザイン技術)の習得に特化しつつある。したがって、過去 2 年間の内容の継続性を考慮し「プログラミング初歩」(HP 作成)を第三年次指導書の内容に加えることが必要である。

また、マルチメディア化するコンピュータは、ネットワークと映像及び音声処理の高度化が特長である。同時に著作権の軽視あるいは無視につながりかねない道具でもある。当初第三年次指導書案にある「Flash」の活用は、こうしたグローバルな考え方に反する内容である。削除するか、参考程度の記述とすることが重要である。

(2) プロジェクト最終年を見据える

本プロジェクトの目標である「子供の発達を支援する指導法の開発」の「子供の発達」は、概して「学年段階あるいは校種」という幅広い段階を考えている。しかし、第三年次は、「幅広さ」ととどまるのではなく、一步踏み込んで、「子ども一人ひとりの個性に応じた教育」あるいは ATI の視点を取り入れることが重要である。

(3) プロジェクト終了後を見据える

過去 2 年間及び 3 年目にも蓄積されるであろう豊富で貴重な資料を含む成果物が、

プロジェクト終了後もいっそう活用され改善などされ継続的に利用されるよう、「プロジェクト成果管理運営及び貸借データベース」（仮称）を構築する必要がある。

以上

*) 本稿は、JICAに提出した報告書「MonPro_業務報告書H2009-FS」に、一部手を加えている。

(平成 20 年 9 月 28 日 FS)